

Interop Tokyo 2021「ShowNet」レポート

これが普及直前の 最新ネットワーク技術だ

昨年2020年はコロナで中止となった「Interop Tokyo」が今年4月16日～18日、2年ぶりに幕張メッセでリアル展示会として開催された。Interop Tokyoでは毎回、多数のベンダーや研究者などが参加し、3年～5年後に普及すると見られる最新技術を使ってネットワークを構築し、展示会場内にも通信サービスインフラを提供する「ShowNet」コーナーの取り組みが注目されている。今年のShowNetでは、ネットワーク回線を高効率・有効に活用するセグメントルーティング技術の新しい試みや、回線を仮想的に束ねて大容量通信を可能にするFlex Ethernet、クラウドとオンプレミスの環境を統合したハイブリッドクラウドなどの取り組みが実施された。いずれも通信・放送・映像分野の事業者にとって、導入メリットの大きい最新技術だ。ShowNetを設計・構築するShowNet NOCチームメンバーの責任者を務める情報通信研究機構（NICT）主任研究技術員 遠峰隆史氏にインタビューし、今年のShowNetの主要テーマの中から、①セグメントルーティング、②Flex Ethernet、③ハイブリッドクラウドの3つの取り組みについて、技術のポイントと導入効果などを聞いた。（取材・構成：渡辺 元・本誌編集長）



遠峰隆史

ShowNet NOCチームメンバーの責任者

国立研究開発法人情報通信研究機構 サイバーセキュリティ研究所
サイバーセキュリティ研究室 主任研究技術員